

歴史の須那  
再発見!

# 那須町と 近現代の人々

vol.13



藤田和三郎(1850-1932)

1月号は、藤田農場の開創者である藤田和三郎を紹介いたします。

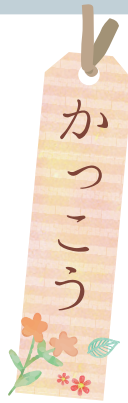
藤田和三郎は、交代寄合旗本芦野氏の家臣の子として嘉永3年に芦野で誕生しました。慶応3年に作られた芦野氏の家中分限帳にも和三郎の名前が記録されています。

和三郎は、明治20年に開設された黒磯駅の前で薪炭商を営み、同33年には、黒田原駅前商店の本拠を移しました(藤田商会・屋号はヤマ田)。当時の黒田原一帯は薪炭商であふれ、昭和8年の時点では、18軒の新炭業者がいたことがわかっています。現在も黒田原には藤田倉庫が現存し、当時の黒田原の隆盛を偲ばせます。藤田倉庫以外にも和三郎が遺したものと

菩提寺である建中寺(芦野)に寄進した鐘楼があります。

また和三郎は、明治33年から大正6年にかけて旧漸進社・那須東原開墾社の土地など850町歩近くを取得し、大地主として農業経営・山林経営に当たりました。これがいわゆる藤田農場です。農場では、薪炭の製造や柏の皮による染料づくり、大麦・小麦栽培などがおこなわれました。また、製炭事業については専門の炭焼き職人により行われ、1釜あたり松で約1000俵・クヌギ・ナラで約40〜50俵を生産しました。この藤田農場は、現在の那須塩原市東原・埼玉一帯にあり、大正2年には農場内に事務所兼別荘が板室街道沿いに建てられ、昭和3年には、敷地内に和三郎の銅像が建立されました。(事務所兼別荘は、現在の県農業試験場黒磯農場。銅像はアジア・太平洋戦争で供出された。)昭和13年頃には、埼玉飛行場の建設に当たり、藤田農場の敷地約250町歩が買収され、一帯が那須野飛行場

となりました。また和三郎は、農場経営だけでなく、政治家としても活躍します。那須村会議員や明治44年から栃木県会議員1期(立憲国民党)を務めました。黒田原や那須塩原市北部の開発・発展に寄与した藤田和三郎は、今もなお人々の記憶に刻まれています。



お正月に受け取る年賀状を楽しみにしている人は多いのではないのでしょうか。我が家に届く年賀状も家族写真と共に近況を伝えるものや手書きのイラストが添えられるものなど、それぞれが個性的でバラエティに富んでいます。最初年賀状を書いたのは、いつ頃だったのでしょうか。同級生に宛てたはがきは全文鉛筆書きで、余

白に十二支をあしらったシンプルなものでした。母に住所を調べてもらい、なんとか作り上げた記憶しています。その後、我が家にとってきた「プリントゴッコ」により、私の年賀状はイラストを中心とした明るく華やかなものに変化していききました。図柄や配色を決めたり、色が混ざらないようスポンジで仕切りを作ったりと楽しい時間が増えていきました。毎年届く年賀状の中で、特に楽しみにしているものがあります。家族写

真が大きく印刷されていて、全員がその年の十二支にちなんだ格好をしています。満面の笑みを浮かべる彼らの姿を見るだけで、元気でいることが伝わってきて、受け取った私たちもつられて笑顔になつてしまいます。きっと写真を撮るとき「ポーズはこうしよう」「もっと笑顔で」などワイワイ楽しい時間を過ごしたのだからと想像しながら眺めています。今年は何んな年賀状だろう。早く来ないかな。心待ちにしている一枚です。

## こんにちは 赤ちゃん



令和4年7月生まれ

うすばしょうご  
**薄葉正護くん**

しょうごくんは…  
お座りができるようになりました。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

## 町の世帯と人口 (12月1日現在・住民基本台帳) ( )の数字は前月比

・世帯数	10,650世帯 (+ 5)	出生	7人 (+ 4)
・人口	24,324人 (-24)	死亡	35人 (+ 5)
男	12,110人 (- 7)	転入	68人 (+13)
女	12,214人 (-17)	転出	63人 (+ 2)
		その他	1人

## 広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

